

「怒られていない」は、
「問題がない」の証明にはならない。

沈黙の代償と、指摘されることの本当の意味

私たちは誤解している。「失礼なことを言えば、誰かが教えてくれる」と。



現実が違う。多くの場合、相手は何も言わずに距離を置く。



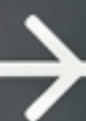
01

次から
誘われない。



02

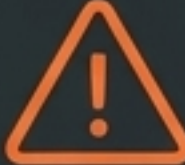
大切な仕事を
頼まれない。



03

本人は、失った
チャンスにさえ
気づけない。

何も知らずに信頼を失い続ける代償。

	怒られる	怒られない
問題あり	成長の機会	 沈黙の危険地帯
問題なし	N/A	理想の状態

「怒られていない」という居心地の良さは、
危険地帯への入り口かもしれない。

コート / 目に見える結果



- ショットが上達する
- 試合に勝てるようになる
- スコアに表示される

コート外 / 目に見えない課題



- パートナーへの言葉が雑なまま
- 支えてくれる人への配慮が足りない
- スコアには表れない人間性

前より勝てたからといって、人との向き合い方まで成長したとは言えない。

指摘の痛みは一瞬。
沈黙の代償は一生。

信頼関係の深さ

「失礼な言動」

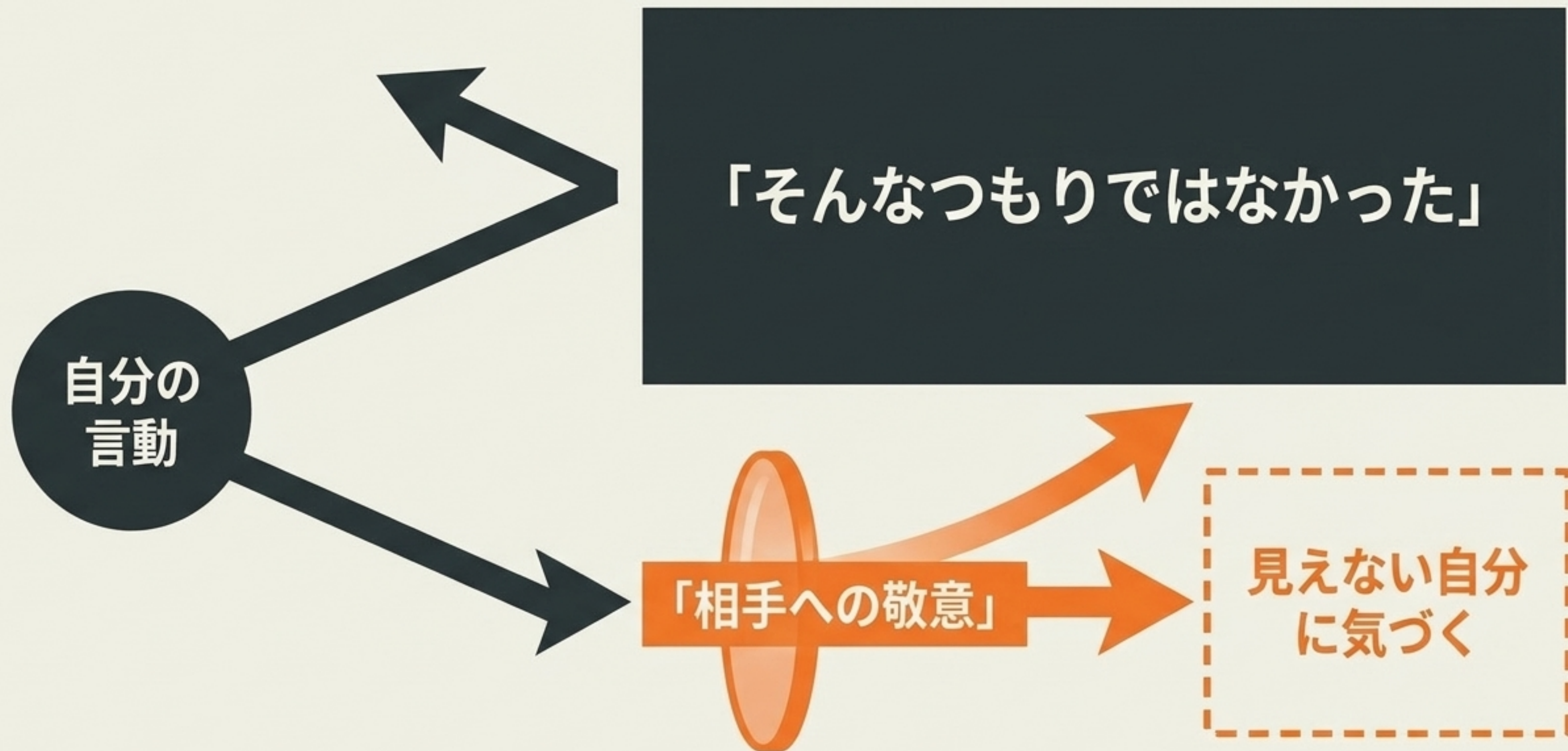
「それは失礼だ」
と指摘される

居心地の良さ B

A
痛み

何も言われたい

時間



ソモサンセツパ：自分を守って話を閉じるか、問い直す場とするか。

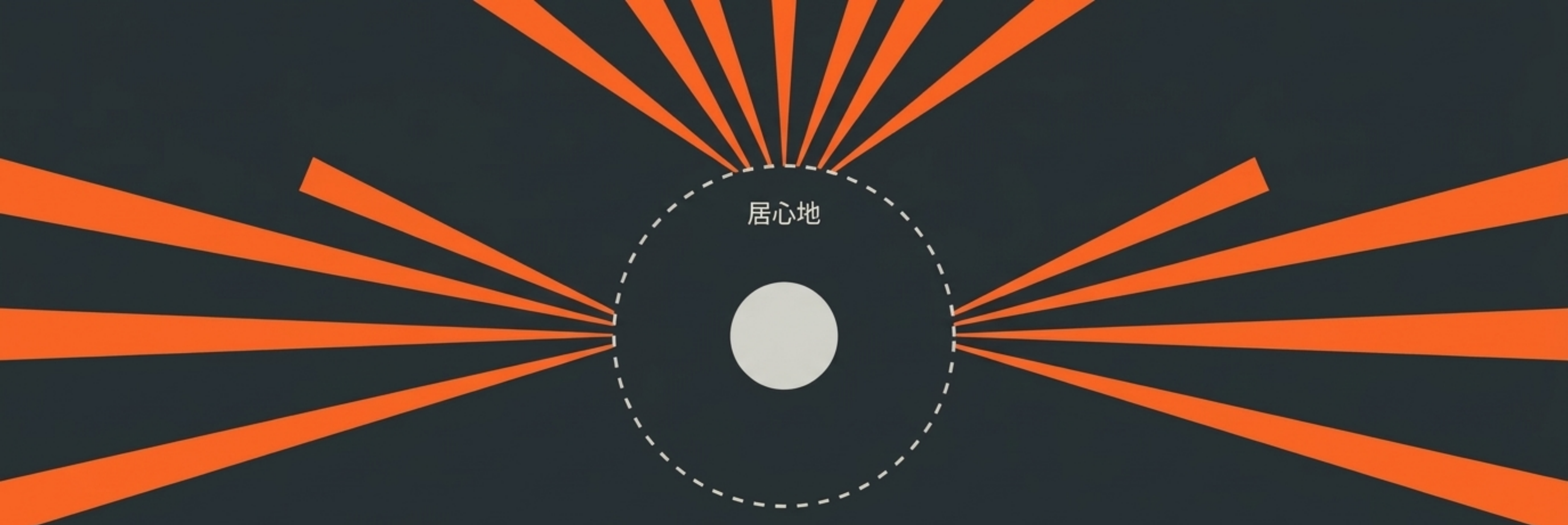
指摘の解剖学

受け取る側の「痛み」

伝える側の「覚悟と労力」



相手が言葉をかけてくれた瞬間には、まだ関係を修正する余地がある。



居心地

「自分の居心地だけを見ていると、
自分のために使われた他人の時間が
見えなくなる。」

注意された瞬間に「嫌われた」と感じる己の防衛本能が、相手の差し出した労力を見落とさせる。

指摘を避ける



居心地を守る



孤立と沈黙

指摘の痛みを
受け入れる



相手の労力に
気づく



深い信頼関係

指摘は罰ではない。他者があなたの未来に、
自らの時間とリスクを**投資**してくれた証である。

指摘されなくなることで、 指摘から学べる自分へ。

「言ってくれて、
ありがとうございます」

その場の礼儀で終わらせない。受け取った投資への感謝は、
あなたの「次の言葉と行動」で証明する。